

## ロケ地北海道を売り込め!

### ～北海道のフィルム・コミッション～

北海道は、2001年4月、映画やテレビドラマのロケーション誘致や支援を行なうため、庁内に「北海道ロケーションサービス」を設置するとともに、昨年9月には国や地方自治体、関連団体、企業など約200団体の参加による連絡組織「北海道フィルムコミッション・フォーラム」を発足させた。

雄大な自然・四季折々の多様な表情を持つ北海道をロケ地として活用してもらい、さらに物語の魅力を加えて世界に発信、地域の活性化につなげていくこの取組を紹介する。



#### フィルム・コミッションとは

フィルム・コミッション（FC）とは、映画やテレビ番組、CM、スチール写真などのロケーションの誘致と支援を行う、主に自治体が設置する非営利の組織のことをいう。1940年代に映画の都といわれるハリウッドのある米国ロサンゼルスで、警察や州兵、ハイウェイ・パトロール、消防、国立公園の管理人といったメンバーで設立されたのが最初とされる。現在、欧米を中心に世界中で約300を超えるFCが活動しており、FCはグローバルスタンダードとなっている。

アジアの中でも、韓国や中国では既に熱心にFCに取り組んでおり、日本は出遅れていた。この10年あまり、米国メジャー系の映画撮影が日本でほとんど行なわれていないの

は、こうしたFCのような支援体制がなかったのもその要因の一つだったかもしれない。

この状況を憂う映画関係者らが中心となって、2000年2月に「フィルム・コミッション設立研究会」が発足したのを契機に、全国各地で都道府県や市町村、商工会議所、観光協会や任意団体などによりFCが設立され、その数は現在50余を数えるに至っている。

北海道では、2001年4月、都道府県としては全国で初めてのFC「北海道ロケーションサービス」を設置し、ロケ情報の発信、PRのためのホームページ開設、道内ロケを円滑に進めるための仕組づくりなどの「北海道ロケーション誘致推進事業」に積極的に取り組んでいる。

#### FCの役割と効果

撮影資源に恵まれた北海道では、戦後間もなくから数多くの映画等の舞台となってきた。函館や小樽のように従来からの観光地のほか、夕張（映画「幸せの黄色いハンカチ」）や富良野（テレビドラマ「北の国から」）、また最近では幾寅（映画「鉄道員（ぽっぽや）」）や恵比島（NHK朝ドラ「すずらん」）のように、作品の公開が知名度向上や観光客の来訪に大きな役割を果たしたところもある。

ロケーションが行われることで、さまざま



テレビドラマ「ラーメン刑事」札幌ロケ

な効果が生まれる。まず撮影が行われる時点では、ロケ隊スタッフの宿泊や飲食、資材の手配やレンタルといった直接的な経済効果や、地域をあげて支援を行うことによる住民同士の交流の拡大など、まちのにぎわいの創出やコミュニティーの活性化にも結びつく。また、作品公開後には知名度の向上やフィルム・ツーリズムによる観光振興といった二次的効果も期待できるほか、地域への意識の高まりと文化の振興、関連産業の育成・集積などにも結びつくと思われる。

しかし、これまでは、いざ広い北海道でロケーションを行おうとしても、具体的なロケ地の選定、施設の所有者や、警察、消防などの許認可のやりとりなど、制作者が行わなければならない事前準備には大きな苦労があった。

FCは、これらの調整を「ワンストップサービス」として支援している。FCが存在するということがロケ地決定の重要なポイントとなる。逆に言えば、FCがないと、せっかく北海道ロケを検討してくれていたのに、事前準備の煩雑さや情報への不到達などから、断念してしまったり、道外で行うケースが以前からもあったはずだ。

### 制作者が求めるもの

北海道ロケーションサービスでは、ロケ地選定の材料となる写真や情報をストックとして随時蓄えている。

北海道でロケをするということがおおむね決まっている制作者はもちろん、北海道でとは限らない場合でも情報収集のために訪れてくる。ここでいかに制作者の希望に添う情報を提供できるかが誘致のカギになる。しかし、そこに持ち込まれる希望は実にさまざま。例えば、「昭和30年代の街並みが残っているところがないか」とか、またあるドラマでは



映画「刑務所の中」網走ロケ

「長野県のような風景はないか」といった、逆に北海道とわからないような風景の希望までもあるという。多くの映画やドラマはフィクションであり、またCMやスチールでも、作品としての映像を創作するためには、今現実にあるものだけではなく、創作という無限の可能性に対応しなければならない。事前に想像のつきにくいものが多く、いつも新しい。「以前と同様な照会をされるという場面は、この2年間ほとんどありませんでしたが、情報のストックも多くなるにつれ、やっと同じような照会が少しずつ出てきました」と担当者はいう。

また、「既存の概念」について、制作者は大きく2つのタイプに分かれる。例えば「坂道」というと函館や小樽などが真っ先に思い浮かぶが、そういった既に有名な坂の街を求められることもあれば、あまり知られていない、穴場的な新しいところはないかという希望もあるのだという。

そして、いちばん苦労するのが天候だ。「例えば、この場所で11月に雪が撮れるかという話になっても、撮れますとも撮れませんともいえない。お天気ばかりはどうにもできないんですよ」と担当者は胸中を明かす。道外のロケ地でも「天気待ち」は悩ましい不確定要素だが、特に、雪は北海道の撮影資源

### 道内各地のフィルム・コミッション

名称	設立	設立母体
オホーツク紋別フィルム・コミッション	平成14年1月	紋別市、紋別商工会議所
当別21夢倶楽部フィルム・コミッション	平成14年6月	当別21夢倶楽部(役場、商工会と連携)
旭川地域フィルム・コミッション支援団体連絡会	平成14年7月	旭川市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、愛別町、上川町、美瑛町、地元企業等
小樽フィルムコミッション	平成15年3月	小樽市、小樽観光協会、小樽商工会議所、小樽観光誘致促進協議会、小樽青年会議所ほか
さっぽろフィルムコミッション	平成15年4月	(財)札幌国際プラザ

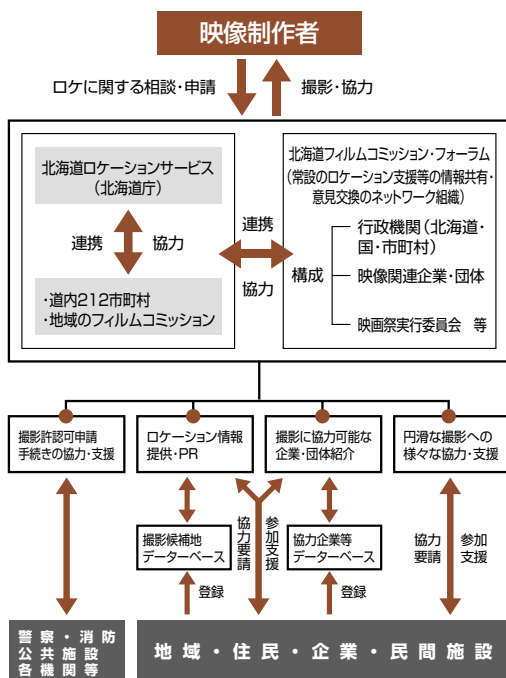
の中でも最大級の売りである。降るだけなら待てても、風景を大きく左右する積雪については変動の幅を読むのが難しい。

### 北海道全体としての取り組みに！

制作者には、市町村の境界は全く意識されない。特定の市町村の中だけで完結できるロケは少なく、複数の市町村にまたがる場合が多い。FC設立前も、市町村単位での支援はいくつもあったが、道が撮影に関係する複数市町村の情報をとりまとめたり調整を行うことのメリットは大きい。警察や消防、国などの関係機関との調整についても、FCへの理解も高まり、調整や手続きがかなり速くスムーズになってきたとのことだ。

昨年9月、道内でのロケーション支援等に関わる人々のネットワーク組織として、「北海道フィルムコミッション・フォーラム」が設立された。参加メンバーは、国（開発局、運輸局、経済産業局）、北海道、市町村などの行政機関、経済連合会や商工会議所連合会、観光連盟など経済、観光、文化に関連する団体、地域のFC、テレビ局や映像制作会社、映画祭実行委員会など約200の機関・団体である。ロケ地情報や支援体制のあり方など、メーリングリストやシンポジウムなどを通じて情報共有と意見交換を行っている。

### 北海道ロケーションサービス オペレーションフロー



道内では、紋別、当別、旭川、小樽、札幌で地域のFCが設立されており、このほか多くの地域で設立の検討や研究が行われている。道では、これら地域FCとも連携をとり、また、地域でのFC設立も支援している。

### よりよい支援体制と環境づくり

ロケが行われる際には、公共施設や道路など、日常生活の一部が制約されることもあり、段取りが悪いと、時には地域住民の迷惑でしかなくなってしまう。ロケをスムーズに行うには、制作者、地域住民と行政の相互理解が必要だ。そのために「地域FCセミナー」を開催するなどして相互理解を深め、ロケーション支援の効果と必要性についての機運を醸成する。

FCの盛んな欧米では、例えば、撮影の邪魔になる標識やガードレールなどがすぐに取り外しできるようになっているなどの工夫がある。「道内でも、1kmや2kmの区間でもいいから、大平原の中の道路を再現できるような工夫をしてみたいですね」と担当者は考えている。

ロケによる効果は長く続かない場合もあるが、市民と企業と行政の連携や相互理解、地域の再発見や再認識など得るものは大きく、また、映像作品の創作によって街は新しい顔をもつことになる。道内各地からこんどはどんな物語の街が姿を現すのか楽しみだ。



映画「星に願いを」函館ロケ

北海道ロケーションサービス  
北海道庁総合企画部政策室内  
TEL 011-241-3230  
<http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-ssnji/fc/>